

## 日本における「山村留学」設立の経緯

日本における山村留学は、昭和51年に長野県八坂村（現 大町市八坂）において、育てる会の教育実践活動として、我が国で初めて制度化されました。

育てる会は昭和43年に青少年社会教育団体として設立され、以来、家庭教育、社会教育、地域教育の重要性を訴えるとともに、「都市化社会の青少年に豊かな自然体験を」をモットーに、子どもたちにとって“体験”こそが、その個性・特性を発露させるものであるとの考えから、全国各地において様々な自然体験教育活動を実践してきました。

設立当初の主な活動は、主として学校休業期間中（春・夏・冬休み）の野外活動でしたが、その内容は山村農家へのホームステイを取り入れたり、1週間～10日間に及ぶ期間設定を行うなど、当時としては画期的ともいえる内容でした。また、農山村地域住民、いわゆる農家の「父さん・母さん」を指導者として招き、自然の中に生きる人々の営みと、その地に培われた文化や生活の知恵を、子どもたちに体験として与えるという視点で活動を企画したことも、他に類を見ないものでした。

この活動は当時たいへんな反響をよび、全国からたくさん子ども達が活動に参加してきました。そしてこの活動を数年繰り返す中で、私達はより子ども達の体験の幅を広げ、かつ質を深める教育環境を設けることができないかと模索をはじめた時、幾人かの保護者の方から、「1年間、育てる会に子どもを預け、自然豊かな環境の中でいろいろな体験をさせてみたい」という相談を受けました。義務教育期間中の生徒・児童を親元から離し、山村で生活させることなど、当時の私達は想像だにしていなかったのです。

しかし、確かに学校休業期間中の活動だけでは、四季を背景にした農山村の様々な営みを体験することは不可能であり、体験の質と幅の広がり求めるには、これも一方策であると私達は考えました。

そこで、当時活動の拠点地としていた長野県八坂村の関係諸機関及び地域の方々と折衝を重ね、制度的には実施が可能であるとの答えを頂き、私達も会員を対象に“山村留学育てる村学園第1期生”の募集を行ったところ、予想以上の応募を頂きました。これも、当時の学校教育のあり方や、都市化する一方の諸環境に危惧を抱く保護者の意識の表れであったのかもしれませんが。

このような経過を経て、9名の小中学生が山村留学の第1期生として八坂村にやってきました。これが我が国における山村留学の第一歩となったのです。